

Ⅲ 基本計画

Ⅲ 基本計画

1. 基本理念・基本コンセプト

(1) 学校づくりの基本理念

基本計画では、新たに開校する新校の学校像について議論を行ってきた。その議論を通して、今後、具体的な諸計画の議論・検討が行われる際の基礎となるべき、学校づくりの「基本理念」を次の通り設定した。

学校づくりの基本理念

「地域とのつながりの中で、 将来の川崎の担い手を育む温かな学校」

グローバル化の進展で世界全体が急速に変化している今、思考・判断しながら様々な困難な場面を乗り越える生きる力が求められる。一方、少子高齢化の急速な進展でローカルな視点での温かな町をどのように創るかを考える人材育成も急務である。温もりのある空間や人材のもとで健やかに育ち、将来の川崎を担う子どもたちの育成をめざす。

子どもを取り巻く環境 <強みを生かす>

- ・地域のつながりが強く、町のみんなが支え合って生きていく雰囲気がある。
- ・等々力緑地、多摩川、中原街道などの地域環境を生かして体験活動を行うことができる。



<学校で育てていきたい資質・能力>

- ア 学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感し、主体的に学ぶ意欲
- イ 自己の役割を果たしつつ、他者と協力・協働して積極的に社会を形成する態度
- ウ 自らの夢や志をもち、地域を愛し、社会に貢献していこうとする心情

(2) 基本コンセプト

学校づくりの基本理念や各種上位計画・関連計画、周辺状況などを踏まえ、「基本コンセプト」を以下の通り設定した。

基本コンセプト

1 子どもたちが豊かに学び表現できる学校

～多様な学習活動や体験活動を生み出し、支える空間づくり～

- (1) 子どもたちが自分の思いを自由に発信できる学校：ア
- (2) 子どもたちが身体全体を使って主体的に活動できる学校：ア
- (3) 子どもたちの歌声や演奏が響く明るい学校：ウ

2 地域コミュニティの拠点となる学校

～地域に開かれ、地域との連携や交流を生む学校～

- (1) 地域、保護者、学校が連携した、地域に開かれた学校：ウ
- (2) 地域に加わる新しい世帯と、地域に育った世帯との交流の場となる学校：イ、ウ
- (3) 近隣施設との連携や異校種間連携による交流を行う学校：イ

3 安心で安全な学校

～日常の利用と共に、災害時の利用にも配慮した施設づくり～

- (1) 避難所としての防災機能を備えた学校：ア
- (2) 子どもたちが安心して快適に過ごせる学校：イ
- (3) 誰もが使いやすい学校：ウ

4 環境を考え、環境を学ぶ学校

～自然エネルギーを活用し、環境教育の場となる施設づくり～

- (1) 緑豊かな潤いあふれる学校：イ
- (2) 自然エネルギーを活用した環境にやさしい学校：ア
- (3) まちとの調和や地域資源を生かした環境学習に取り組む学校：ア



ア・イ・ウ：学校で育てていきたい資質・能力の分類

Ⅲ 基本計画

■充実した教育空間

—基本コンセプトを実現するための主な教育空間—

- ・オープンスペース
- ・図書室、パソコン室、グローバルルーム、郷土資料室の一体化
- ・多目的ホール
- ・学年オープンスペース
- ・郷土資料室
- ・グローバルルーム
- ・太陽光パネル
- ・地域ラウンジ
- ・自然換気・自然採光
- ・多目的ルーム



■教育空間の活用例 育てたい資質・能力を育成するために

—基本コンセプトのもとでの空間づくりによる主な空間活用例—

～多様な学習活動や体験活動を生み出し、支える空間づくり～

- ・オープンスペースに低テーブルを置くことで生活科、図画工作などの活動の幅が広がる
：ア
- ・可動展示壁を利用したプレゼンテーション・ワークショップ・ディスカッション：イ
- ・多目的スペースにステージやスクリーンを設置することで、報告会や合奏・合唱の披露が可能：ウ
- ・情報収集スペースを一体化（図書室、パソコン室、グローバルルーム、郷土資料室）し、多面的な情報収集が可能：イ
- ・学年スペースで子どもたち主体の学年集会を実施（小中連携や小小連携の取組みが可能なスペース）：イ

～地域に開かれ、地域との連携や交流を生む学校～

- ・地域の拠点として機能する地域ラウンジ、特別活動室、PTA 活動室：イ
- ・音楽ホールとしても使用できる広々とした多目的ホールで歌や合奏による心の交流：ウ
- ・学年スペースを活用し、学年ごとでの地域との交流を実現：イ
- ・多目的ルームを地域開放することで、PTA 活動や地域活動の活性化につなげ、連携を促進：ウ
- ・郷土資料室に市民ミュージアムから借りて展示したり、ゲストティーチャーを招いたりなどの連携：ウ

～安心で安全な学校～

- ・防災機能が強化されていることに気付かせることで課題づくりへと発展可能：ア
- ・防災マップづくりなどが取り組みやすい多目的スペースが充実：イ

～自然エネルギーを活用し、環境教育の場となる施設づくり～

- ・太陽光パネルの設置やエネルギー利用状況の見える化で環境に興味を持たせる：イ
- ・可動展示壁や多目的ホールを利用して、環境に対する調査・研究の報告会を実施：アイ

Ⅲ 基本計画

■実際の授業構想例

□総合的な学習の時間を元にした授業構想例

- ・上丸子小学校、西丸子小学校との共同研究「子ども環境学習」 5年
- ・西丸子小学校との共同研究 「エコエコ大作戦」 5年
- ・地域・区役所との連携 「ぼくらのセンターストリート」 4年
- ・中原区役所との連携 「防災マップをつくろう」 4年
- ・ミュージアムとの連携 「はい、こちらミュージアム編集局です」 6年
- ・新丸子駅前商店街との連携 「大好き、新丸子商店街」 3年
- ・子育てサロンと連携した生命尊重教育「こんにちは 赤ちゃん」 6年

□生活科

- ・幼稚園・保育園児との交流 「ようこそ！幼稚園・保育園のみなさん」 1、2年

□学校行事など

- ・地域ふれあいまつり
- ・給食交流会
- ・読み聞かせ
- ・小中連携
- ・小小連携

(3) 基本コンセプトを実現するための整理事項

基本コンセプトを実現するため、ソフト的な観点で整理を行う内容と、関連する具体的な整備例を以下の通りまとめた。

基本コンセプト

① 子どもたちが豊かに学び表現できる学校

(1) 子どもたちが自分の思いを自由に発信できる学校

- 様々な教科における学習活動
- 年齢による学習活動の違い
- 日々の成果発表や行事における作品展示

—関連する具体的な整備例—

- ・ 一体利用可能なオープンスペースとクラスルーム
- ・ 年齢に応じたオープンスペースの設え
- ・ 教科に応じた特別教室の設え
- ・ ステージや掲示スペース、ICTなどの発表の場

(2) 子どもたちが身体全体を使って主体的に活動できる学校

- 体育の授業における活動
- 放課後の活動、行事における様々な活動
- 身近なスペースでの遊び（休み時間など）
- 児童数の増減への対応

—関連する具体的な整備例—

- ・ 運動スペースの適切な計画
- ・ 身近な遊び場の確保
- ・ 増築スペース（教室・給食室など）の確保
- ・ 多用途への転換を考慮した配置・動線計画

(3) 子どもたちの歌声や演奏が響く明るい学校

- 音楽の授業における活動
- 合唱祭などの行事にむけた活動
- 地域に向けた演奏会など（地域開放）の取組
- その他学習活動（理科・家庭科・図工等）

—関連する具体的な整備例—

- ・ ステージのある音楽室や図書室
- ・ ランチルームと連続した音楽室
- ・ 多目的ホールの設置
- ・ 開放的で利用しやすい特別教室

Ⅲ 基本計画



学年合同の集会風景（大田区立嶺町小学校）



低学年の活動風景（福岡市立博多小学校）



大階段での発表（福岡市立博多小学校）



身近な場所で調べもの（聖籠町立聖籠中学校）



電子黒板での発表（船橋市立三山東小学校）



創作作品の発表（青森県南部町立名川中学校）



グラウンドでの活動（品川区立日野学園）



グラウンドでの活動（中央区立中央小学校）



体育館での活動（福岡市立博多小学校）



身近な遊びスペース（千葉市立美浜打瀬小学校）



身近な遊びスペース



プールでの水泳授業（川崎市立南菅小学校）



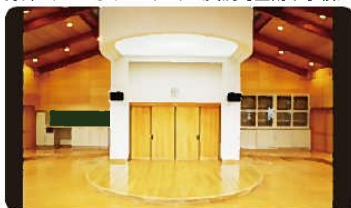
野外ステージでのコンサート（大洗町立南中学校）



音楽室とランチスペースでの演奏会（砺波市立出町小学校）



開放的な音楽室（戸田市立芦原小学校）



音楽室前の多目的スペース（長浜市立長浜小学校）



図書室での読み聞かせ（横須賀市立大塚台小学校）



図書室に集まり学習する様子（富山市立芝園小学校）

基本コンセプト

2 地域コミュニティの拠点となる学校

(1) 地域、保護者、学校が連携した、地域に開かれ信頼される学校

- 地域開放機能の設定
- 地域ボランティアの活用
- 地域への情報発信、学校活動の発表
- 地域に開きつながる場

—関連する具体的な整備例—

- ・開放諸室の配置動線計画
- ・ボランティア室の設置
- ・屋外掲示などの情報発信スペース
- ・広場など敷地外周部と連続したデザイン

(2) 地域に加わる新しい世帯と、地域に育った世帯との交流の場となる学校

- 地域コミュニティ施設としての学校の役割
(展示、集会、イベントなどの活動)
- 子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流できる場
- 学校と地域の日常的な交流の場

—関連する具体的な整備例—

- ・地域ホームページの設置
- ・地域の歴史や再開発情報などの紹介スペース
- ・歩道状空地やポケットパークによる交流の場の提供

(3) 近隣施設との連携や異校種間連携による交流を行う学校

- 日本医科大学付属病院との連携
- 中原図書館との連携
- 近隣の学校との連携・交流

※トリアージ：

負傷者等の患者が同時発生的に多数発生した場合に医療体制・設備を考慮しつつ傷病者の重症度と緊急度によって分別し、治療や搬送先の順位を決定すること。

—関連する具体的な整備例—

- ・災害時のトリアージスペース
(病院との連携)
- ・図書セットの受け入れ
(図書館との連携)

Ⅲ 基本計画



家庭科室の開放（青森県南部町立名川中学校）



会議室の開放（横須賀市立大塚台小学校）



音楽ホールでのコンサート（多摩市立多摩第一小学校）



屋外での作品展示（イメージ）



交流室でのボランティア（長浜市立富永小学校）



公園を一体的に利用（杉並区立杉並第十小学校）



地域の歴史や伝統展示（長岡市立阪之上小学校）



イベントスペースの開放（戸田市立芦原小学校）



特別教室前の地域開放モール（渋谷区立上原中学校）



正門前ポケットパークでの交流（イメージ）



学校菜園での交流（奈良市立登美ヶ丘小学校）



ポケットパークフラワーメイク（新座市立八石小学校）



病院との連携訓練（大田区立田園調布小学校）



医師による健康相談会（イメージ）



病院内の子どもギャラリー（京丹波町病院）



図書館からの図書セット貸出（イメージ）



地域開放図書館（西会津町立西会津小学校）



地域のお祭り開場として使用（イメージ）

基本コンセプト

3 安心で安全な学校

(1) 避難所としての防災機能を備えた学校

- 災害時における日本医科大学付属病院との連携
- 学校運営と避難所運営との両立

—関連する具体的な整備例—

- ・避難所としてのスペースや機能の設定
- ・緊急車両や物資搬入に配慮したスペース
- ・災害時のトリアージスペース
- ・災害時に利用可能な設備システムの採用

(2) 子どもたちが安心して快適に過ごせる学校

- 子どもたちが安心できる居場所
- コミュニケーションの誘発
- 安全性の確保（いじめの防止、防犯）
- やわらかで温かみのある木材利用

—関連する具体的な整備例—

- ・明るいトイレ、落ち着ける保健室
- ・ベンチやベンチなどコミュニケーションの場
- ・教室近くの教師コーナー
- ・防犯に配慮した受付、開口部

(3) 誰もが使いやすい安全な学校

- バリアフリー
- ユニバーサルデザイン
- 安全性の確保（怪我の防止）

—関連する具体的な整備例—

- ・スロープや手すりの設置
- ・わかりやすいサイン、適切な色彩・照明
- ・落下防止対策、怪我を防ぐディテール

Ⅲ 基本計画



荷捌き空間となる半屋外空間（長岡市立東中学校）



支援物資の荷捌き（イメージ）



マンホールトイレ（イメージ）



体育館での避難生活（イメージ）



避難所での情報収集（イメージ）



避難者のプライバシーに配慮（イメージ）



デンでおしゃべり（鯖江市立中河小学校）



明るく快適な交流空間（千葉市立美浜打瀬小学校）



明るく気持ちの良いトイレ（横須賀市立大塚台小学校）



近くに先生がいる安心感（福岡市立博多小学校）



地域みんなで子どもを守る（戸田市立芦原小学校）



教室から非常通報



ベビーベッド・シャワー完備のトイレ（呉市立昭和西小学校）



外部からも使用できるトイレ（神戸市立池田小学校）



十分な高さの手すりの設置（イメージ）



転落防止手すり（イメージ）



明度差をつけた床仕上げ（イメージ）



滑り降り防止手すり（イメージ）

基本コンセプト

4 環境を考え環境を学ぶ学校

(1) 緑豊かな潤いあふれる学校

- 緑や水による潤い・遊び場の創出
- グラウンドの芝生化
- 隣接する広場との一体的な緑地の形成
- センターストリート沿いの景観づくり

—関連する具体的な整備例—

- ・ 地上部緑化、壁面緑化、屋上緑化
- ・ ビオトープでの生態系の形成
- ・ グラウンドの芝生化(天然芝/人工芝)
- ・ 周囲と連続する敷地外周部の緑化

(2) 自然エネルギーを活用した環境にやさしい学校

- 自然エネルギーを活用した快適な室内環境
- 自然エネルギーシステム・省エネルギーシステムの採用によるライフサイクルコストの削減
- 災害時にも利用可能なエネルギーの採用

—関連する具体的な整備例—

- ・ 自然採光、自然通風、太陽光発電、風力発電、雨水利用、井水利用
- ・ コージェネレーションシステム、燃料電池
- ・ 複数のエネルギーシステムの導入

(3) まちとの調和や地域資源を生かした環境学習に取り組む学校

- 多摩川や二ヶ領用水などの地域資源を活用した環境学習
- 自然エネルギーやビオトープを活用した環境学習
- 地域にむけた良好な環境の形成

—関連する具体的な整備例—

- ・ 環境学習室や理科室の計画
- ・ 発表、展示スペースの確保
- ・ エネルギーの使用量や発電量の見える化
- ・ 近隣への日影や騒音等の影響に配慮

III 基本計画



樹木のある屋外空間（富山県南砺市立福光東部小学校）



ビオトープ（川崎市立百合丘小学校）



芝生グラウンド（渋谷区立渋谷本町学園）



芝生の中庭（広島県府中市立府中学園）



屋上緑化（武蔵野市立大野田小学校）



緑のカーテン（三重県熊野市立入鹿中学校）



高窓からの自然採光（鈴鹿市立旭が丘小学校）



自然換気・ライトシェルフ（神戸市立玉津第一小学校）



太陽光パネル（川崎市立百合丘小学校）



太陽光発電パネル壁と井水冷房の輻射パネル（手前）（昭和町立押原小学校）



空調循環水の水力発電（私立田園調布学園）



燃料電池による給湯（武蔵野市立大野田小学校）



太陽熱の体験学習（高森町立高森南小学校）



多摩川学習の発表（イメージ）



太陽光パネルの発電モニターの活用（静岡市立番町小学校）



太陽光パネルを利用した出前授業（横須賀市立大矢部小学校）



ビオトープでの自然観察（戸田市立声原小学校）



理科教室前の緑化テラス（カラス女子中学高等学校）

Ⅲ 基本計画

2. 基本方針

(1) 配置計画

- ・ 近隣建物による日影の影響に配慮し、校舎やグラウンドの配置を検討する。
- ・ 自然通風や自然採光に配慮した配置、形状とする。
- ・ グラウンドは、運動種目に必要な寸法・形状を確保し、同時利用の安全性にも配慮する。
- ・ 避難所として十分な防災機能を発揮することのできる配置とする。
- ・ 災害時に、日本医科大学武蔵小杉病院と連携が可能な計画とする。具体的には、病院外でトリアージをする必要が生じた場合に、小学校においてトリアージスペースを確保することから、屋外にテント（2～3張り）を設置できるスペースを確保する。
- ・ 周辺の住宅地への騒音や砂埃などの影響に配慮する。

(2) 平面計画

- ・ 地域開放や避難所運営時に、容易にセキュリティ区画が可能な計画とする。
- ・ 児童数が増加した場合は、各学年スペースまわりで学級数を増設できるよう配慮し、充実した特別教室を維持できる計画とする。
- ・ 通学動線、管理者動線、給食などのサービス動線ができる限り交錯しない計画とする。
- ・ 普通教室は学年のまとまりを持った配置とし、多様な活動や学習を可能にする空間構成とする。
- ・ 特別教室は、関連ある科目を集約して配置し、一体利用や多目的利用に対応できる計画とする。

(3) 計画諸室

- ・ 川崎市立学校における適正規模の考え方より、普通教室は18学級とする。一時的に児童数が増加した場合には、30学級までを許容できる計画とする。
- ・ 施設の有効活用や地域連携の観点から、プールは西丸子小学校のプールを共同利用する方向で検討を行う。

次頁から、諸室構成を示す。

Ⅲ 基本計画

1 コマ : 64 m²

		室名	コマ数	室数	コマ小計	
校舎	普通教室	低学年	1年普通教室(CR)	1.20	3	3.60
			学年オープンスペース	2.00	1	2.00
			ワークルーム	1.20	1	1.20
			児童トイレ	0.25	2	0.50
			教材庫	0.25	1	0.25
			2年普通教室(CR)	1.20	3	3.60
			学年オープンスペース	2.00	1	2.00
			ワークルーム	1.20	1	1.20
			児童トイレ	0.25	2	0.50
			教材庫	0.25	1	0.25
			更衣室	0.25	2	0.50
			中学年	3年普通教室(CR)	1.00	3
		学年オープンスペース		3.00	1	3.00
		多目的教室		1.00	1	1.00
		児童トイレ		0.25	2	0.50
		教材庫		0.25	1	0.25
		4年普通教室(CR)		1.00	3	3.00
		学年オープンスペース		3.00	1	3.00
		多目的教室		1.00	1	1.00
		児童トイレ		0.25	2	0.50
		教材庫		0.25	1	0.25
		少人数教室		0.50	2	1.00
		更衣室		0.25	2	0.50
		高学年	5年普通教室(CR)	1.00	3	3.00
			学年オープンスペース	3.00	1	3.00
			多目的教室	1.00	1	1.00
			児童トイレ	0.25	2	0.50
			教材庫	0.25	1	0.25
			6年普通教室(CR)	1.00	3	3.00
			学年オープンスペース	3.00	1	3.00
			多目的教室	1.00	1	1.00
			児童トイレ	0.25	2	0.50
			教材庫	0.25	1	0.25
	少人数教室		0.50	2	1.00	
	更衣室		0.25	2	0.50	
	特別支援教室	特別支援教室	グループ学習室	1.00	1	1.00
			個別指導室1	0.50	1	0.50
			個別指導室2,3,4	0.25	3	0.75
			特別支援プレイスペース	1.00	1	1.00
			多目的トイレ・シャワー・更衣室	0.50	1	0.50
			倉庫	0.25	1	0.25
特別教室	生活	生活科室	1.50	1	1.50	
	理科・図工	図工室	1.50	1	1.50	
		準備室	0.50	1	0.50	
		理科室	1.50	1	1.50	
		環境学習室	1.00	1	1.00	
		準備室	0.50	1	0.50	
		展示ギャラリー	0.50	1	0.50	
	家庭・ランチ	多目的ルーム兼家庭科室・和室	3.00	1	3.00	
		準備室	0.50	1	0.50	
		家庭科ギャラリー	0.50	1	0.50	

Ⅲ 基本計画

		室名	コマ数	室数	コマ小計	
校舎	特別教室	音楽	音楽室	1.50	1	1.50
			楽器庫	0.50	1	0.50
			準備室	0.50	1	0.50
			音楽ギャラリー	0.75	1	0.75
			多目的ホール	3.00	1	3.00
			放送室	0.50	1	0.50
		メディアセンター	図書室	2.50	1	2.50
			準備室	0.50	1	0.50
			パソコン教室	1.50	1	1.50
			準備室	0.50	1	0.50
			郷土資料室	1.00	1	1.00
			子ども会議室	0.50	1	0.50
			グローバルルーム(外国語活動室)	1.50	1	1.50
		教科教材室	準備室(算数、社会)	0.50	2	1.00
			準備室(国語、道徳)	0.25	2	0.50
		生活	昇降口	2.50	1	2.50
			児童トイレ	0.50	2	1.00
	給食配膳コーナー		0.30	3	0.90	
	管理	校長室	1.00	1	1.00	
		校務センター	職員室	2.50	1	2.50
			印刷室兼教材制作コーナー	0.75	1	0.75
			教師ラウンジ	0.50	1	0.50
		事務センター	0.50	1	0.50	
		会議室	1.00	1	1.00	
		用務員室	0.50	1	0.50	
		資料庫	0.50	1	0.50	
		職員更衣室・休憩室・シャワー	1.00	1	1.00	
		来客・職員トイレ	0.25	1	0.25	
		来客・職員玄関	0.50	1	0.50	
		心のケア	保健室	1.00	1	1.00
			保健ギャラリー	0.25	1	0.25
			相談室	0.25	2	0.50
		地域連携	地域ラウンジ(兼ボランティア室)	1.00	1	1.00
			特別活動室	1.00	1	1.00
			PTA室	0.50	1	0.50
	トイレ		0.25	2	0.50	
	地域玄関		0.50	1	0.50	
廊下・階段・EV他		上記計の25%			24.94	
屋外施設	屋外体育倉庫	0.50	1	0.50		
	防災備蓄倉庫	0.75	1	0.75		
	屋外トイレ	0.40	1	0.40		
	ゴミ・資源物置場	0.50	1	0.50		
わくわく	わくわくプラザ	3.50	1	3.50		
給食		4.63	1	4.63		
体育施設	屋内運動場	アリーナ	アリーナ	11.25	1	11.25
			ステージ	1	1	1.00
			器具庫	1	1	1.00
		放送コーナー	0.2	1	0.20	
		トイレ	0.25	1	0.25	
		更衣室兼会議室	0.75	1	0.75	
		廊下・階段・玄関他	上記計の35%			5.06
総計					154.48	

Ⅲ 基本計画

3. 単位空間の計画

(1) 普通教室

普通教室まわりを考える3つのキーワード

◇多様な活動を可能にする空間

- ・学年のまとまりと、多様な活動や学習に応じた空間構成 など

◇子どもたちが安心して過ごせる生活の場

- ・デン、教師コーナー、木材利用 など

◇学習活動を支える機能・設備の確保

- ・流し台、更衣室、掲示板、観察台、展示台、収納空間、ICT など

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

流し

- ・低学年は観察などがあるので、外にも1つ流しがある方が良い。(教室内にも必要)
- ・高学年は教室内には不要。

教師コーナー

- ・高学年の教師コーナーも教室内にある方が良い。子どもたちのすぐそばに先生がいる方が、子どもたちも安心し、先生と子どもの交流も生まれやすい。
- ・教師コーナーは、教室内の4隅どこにでも設置ができるようにする必要がある。
- ・カウンターのような固定式ではなく、可動式の机があれば良い。先生専用の収納スペースは必要。

デン

- ・低学年は、普通教室の中に、落ち着かせる場所があると良いと思う。
- ・クールダウンのためだけでなく、学級文庫の閲覧コーナーとしても機能すると良い。
- ・担任が休んだ場合、隣のクラスの先生がオープンスペース側から、2クラスを一斉に指導することもある。その場合、教室とオープンスペースの間にデンなどの空間を遮る場所はない方が良い。

情報コーナー

- ・中学年以上は、休み時間などにも活用できるよう、設置すると望ましい。

収納スペース・掲示面

- ・オープンタイプの教室とした場合は、収納スペースや掲示面についても問題である。
- ・教室内ロッカーを大きくすると、掲示面が減少するという問題もある。
- ・教室内の掲示面を確保した上で、教室内ロッカーに入らないものを、オープンスペース側に収納できると良い。

Ⅲ 基本計画

学年ユニットの考え方

- ・中高学年は体格が大きいことを考えると、中高学年も低学年同様、教室を広く確保するという考えもある。
- ・学年全員が集まれるオープンスペースは、学年集会などの際にはメリットが大きいですが、その頻度は少ない。1クラス分が使用できる広いスペースがあれば、十分かもしれない。

その他

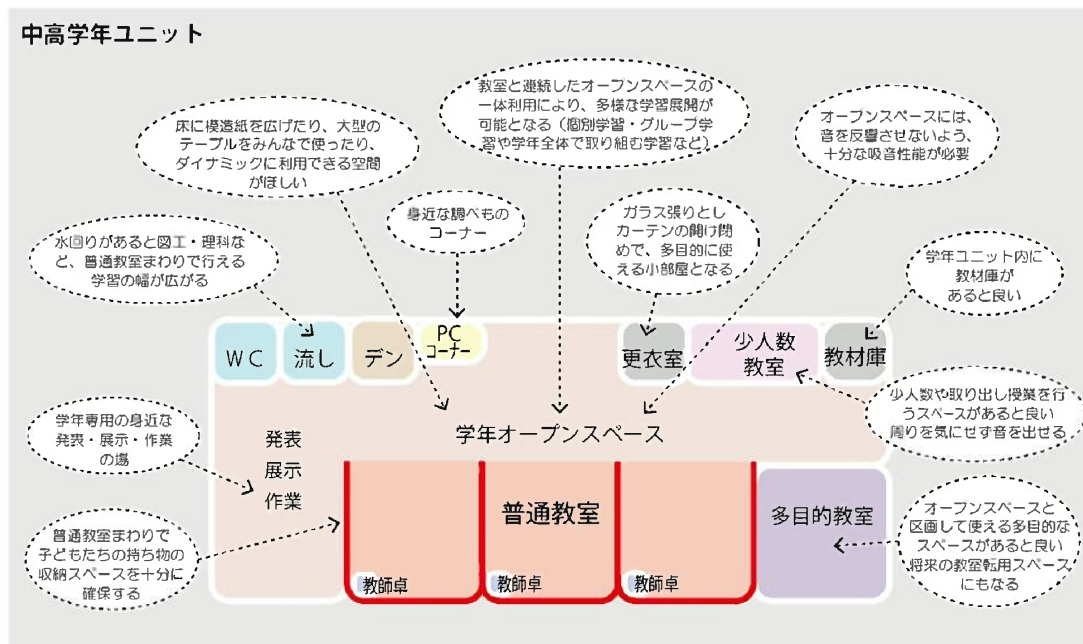
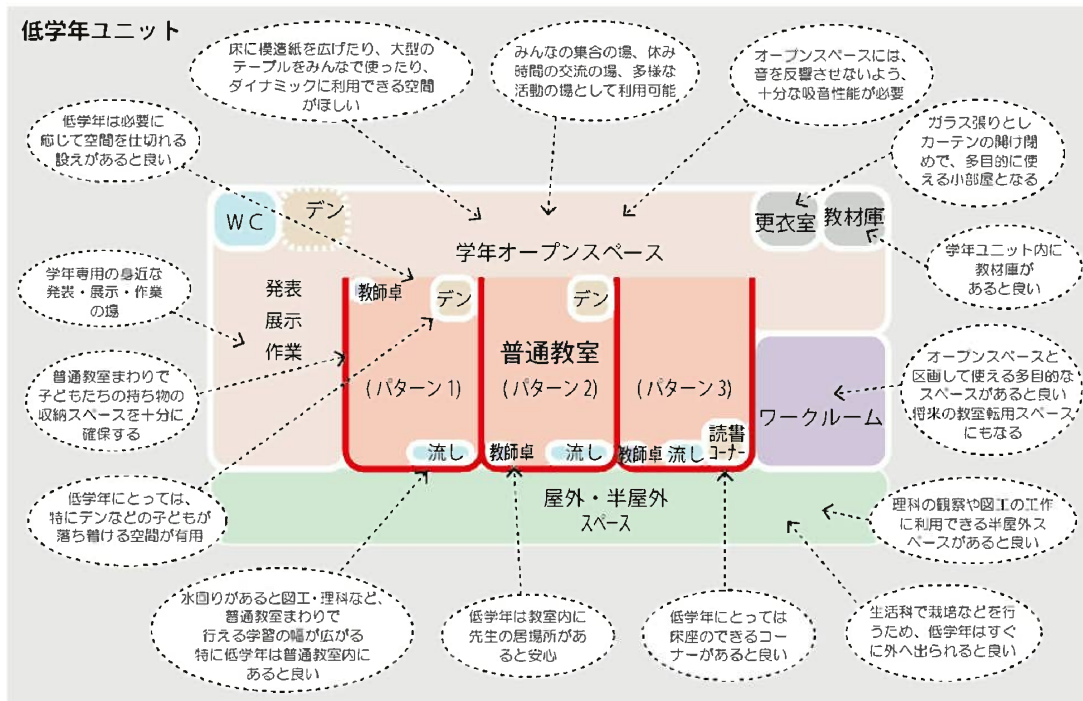
- ・オープンタイプの教室では防音の問題が気になる。音楽教室があっても、例えば、鍵盤ハーモニカなどでは音楽室を使わないと思うので、その場合はかなり筒抜けなのではないか。
- ・オープンタイプの教室では、教室前が常に通路になってしまわないよう配慮が必要。
- ・普通教室からグラウンドが見えた方が良い。体育の授業は学級経営がわかるので、他の学級の先生から見えた方が良く、休み時間に普通教室からグラウンドの様子が見えるのも良い。

■基本的な考え方

- ・普通教室は各学年の学習・生活特性に応じた適切な広さ、レイアウトを検討する。特に低学年については、普通教室で様々な学習を行うことを考慮し、教室内のスペースや設備を充実させる。
- ・学級数が増加した場合には、オープンスペースや多目的ルーム、ワークルームなどを普通教室に転用できるよう、採光や動線計画などに配慮する。
- ・多様な学習活動が可能となるよう、普通教室はオープンタイプとして計画し、低・中・高学年それぞれに応じた設えとする。
- ・音楽や音読などでの利用に配慮し、教室やオープンスペースの仕上げは防音に配慮した仕様とする。
- ・教室まわりに必要な収納スペースと掲示面を確保すると共に、オープンスペースも活用して十分なスペースが確保できるよう検討する。
- ・学年スペースには流しコーナーを設置する。特に、低学年は教室内への設置を検討する。
- ・子どもたちが安心して安全に過ごせるよう、適切な場所にデンや教師コーナーを設置する。特に、低学年については、教室内への設置を検討する。
- ・普通教室はグラウンドに面にして計画する。

III 基本計画

■普通教室まわりの機能構成イメージ

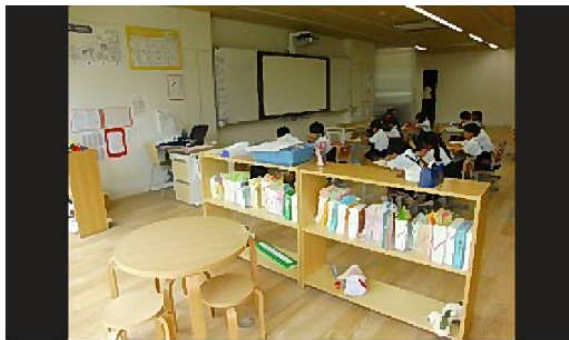


※上記は、普通教室まわりに関する様々な意見を視覚化したイメージである。具体的な配置は、建物全体の配置計画やその他条件を踏まえ検討を行う。

Ⅲ 基本計画

■参考事例

◇多様な活動を可能にする空間



普通教室と学級スペース（手前）（帝京大学小学校）



普通教室とオープンスペース（川崎市立御幸小学校）



低学年のオープンスペース（福岡市立博多小学校）



中・高学年のオープンスペース（戸田市立芦原小学校）



オープンスペース内の小空間（川崎市立はるひ野小中学校）



低学年教室前の屋外スペース（川崎市立御幸小学校）

Ⅲ 基本計画

◇子どもたちが安心してすごせる生活の場



子どもたちのスケールにあったデン（鯖江市立中河小学校）



クラスに1つある低学年のデン（川崎市立御幸小学校）



教室内の教師卓（飯館村立飯樋小学校）



ベンチのある小空間（千葉市立美浜打瀬小学校）



内装木質化（名古屋市立植田東小学校）



明るいトイレ（横須賀市立大塚台小学校）

◇学習活動を支える機能・設備の確保



教室まわりの収納（伊那市立伊那東小学校）



オープンスペースの展示台（川崎市立御幸小学校）



様々な展示スペース（日本女子大附属豊明小学校）



オープンスペースにある水場（千葉市立美浜打瀬小学校）



発表等に使える電子黒板（船橋市立三山東小学校）

Ⅲ 基本計画

(2) 特別教室

特別教室まわりを考える3つのキーワード

◇利用学年や利用形態を考慮した利便性の高い配置

- ・普通教室との動線、屋外施設との連携 など

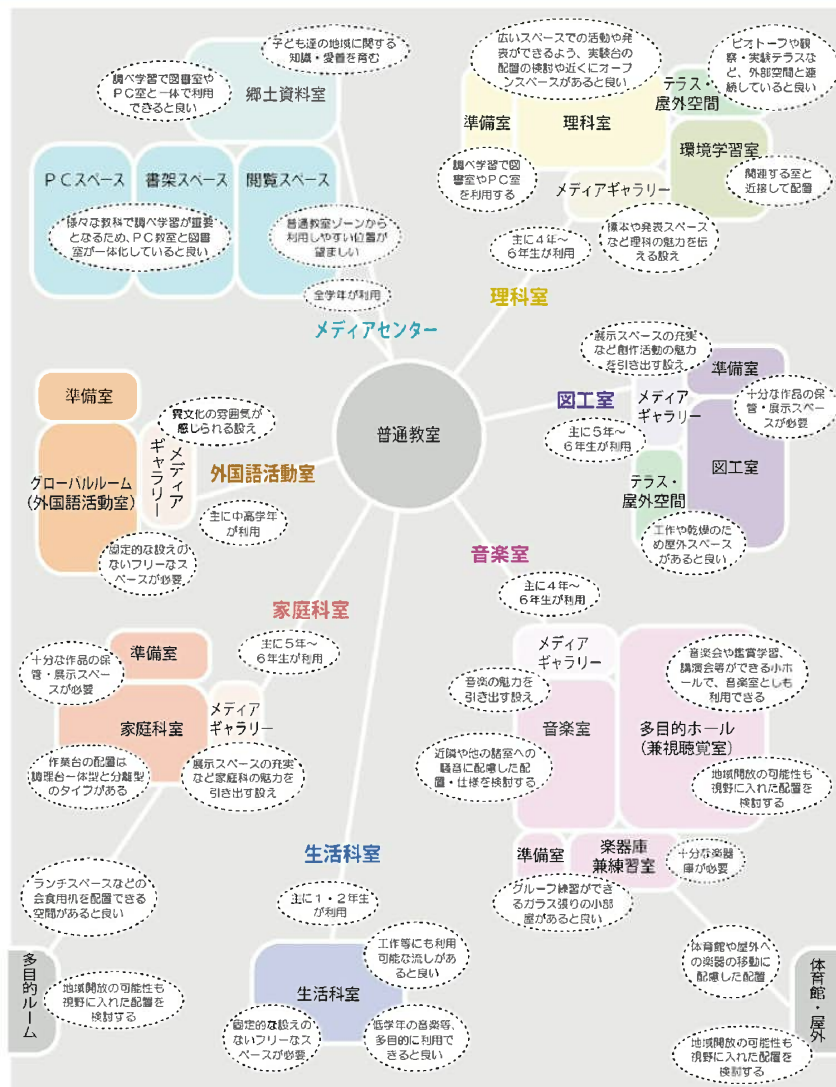
◇関連科目の集約配置による一体利用、設備や性能に応じた多目的利用

- ・ゾーン編成、メディアセンター など

◇地域との連携に配慮した機能、配置

- ・地域開放諸室の種類と配置、環境学習室、郷土資料室 など

特別教室の機能 構成イメージ



※上記は、普通教室まわりに関する様々な意見を視覚化したイメージである。

具体的な配置は、建物全体の配置計画やその他条件を踏まえ検討を行う。

次頁から、各教室に関するヒアリングや検討委員会での主な意見や基本的な考え方を示す。

Ⅲ 基本計画

①メディアセンターまわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・PCなどを使用した調べ学習は高学年で行うが、図書室を使用した学習は、1年生が多い。メディアセンターは、どの学年からもアクセスしやすい位置にあると良い。
- ・図書室を開放しない前提であれば、PC室との一体配置（1つの空間とする）も可能ではないか。
- ・図書室には、ゆっくりと読書をしたい子どももいるので、PC室と一体だと落ち着かないのではないか。「読むこと」と「調べること」は、空間を分けた方が良い。
- ・本の書架スペースを境に、閲覧スペースとPCスペースを分けたらどうか。両方を使用した2クラス同時の授業も可能。
- ・閲覧スペースには、子どもが寝転んで本を読めるようなスペースがあると良い。
- ・読み聞かせに必要なスペースは、授業で行う場合は最大1クラス分、休み時間にボランティアが行う場合は20名分程度。小上がりになっていて、パーティションでその他の空間と区画できると良い。

ICTの活用

- ・全小学校でPC室に40台のPC（最近の学校ではノートPC）を導入しているが、1人1台のPC環境というのが、PC室でしか整わないのが現状である。今後は、可動型収納庫付タブレット端末40台を、各フロアに1セット用意し、様々な場所で、1人1台のPC環境をつくることも検討できるのではないか。
- ・使う時にタブレットを持ち出すことを考えると、PC室に常にPCが置いてある環境の方が、便利かもしれない。
- ・最低でも、同時に40台がインターネットにアクセスできる環境が必要。
- ・市内では、普通教室内に50インチのTVを導入している。天井吊り下げ型は、スペースが無駄にならないが、置型TVのように必要に応じて移動できる方が良いという声もある。
- ・黒板の一部にスクリーンを設置し、プロジェクターを投影する方法や、黒板とは別にTVやスクリーンを設置している例がある。

その他

- ・学年ユニットに本やPCコーナーを設置するのは良いと思う。

■基本的な考え方

- ・メディアセンターは学校の中心に配置し、全学年が容易にアクセスできるよう配慮する。
- ・図書室とPC室を一体的なメディアセンターとして整備し、調べ学習などの多様な学習形態に対応できる計画とする。
- ・読む空間と調べる空間を区分し、双方の活動に支障のないように計画する。
- ・閲覧スペースには、通常の机の他に、床座できるコーナーを設置するなど、落ち着いて読書ができる空間を整備する。
- ・読み聞かせなどに対応できるステージや和室などの整備を検討する。
- ・「学びのイノベーション事業」と「フューチャースクール推進事業」などの動向を踏まえ、充実したICT環境の導入を検討すると共に、ICT技術の変革に柔軟に対応できる計画とする。
- ・学年ユニット内にも図書コーナーやPCコーナーを設置するなど、身近な場所でメディアに触れられる環境の整備を検討する。

■参考事例

メディアセンター



(湘南学園小学校)

■調べ学習での利用
ex) 図書室とPC室の一体配置



(イメージ)



(鶴岡市立朝陽第一小学校)

■日常の利用しやすさ
ex) アクセスしやすい図書室



(妙高市立新井小学校)

ex) 開放的な図書室



(帝京大学小学校)



(川崎市立御幸小学校)

■郷土資料室の一体利用



(イメージ)

・・・他のスペースとの連携・・・



(大洗町立南中学校)

■学年スペースにコーナー設置



(聖籠町立聖籠中学校)

Ⅲ 基本計画

②理科室まわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・実験台の仕様、配置はオーソドックスなタイプが良いとのこと。
- ・港南小学校の実験台の配置、仕様はよく考えられている。
- ・多摩第一小学校のガス水道付実験台は使いやすそうである。

ICTの活用

- ・ICTは必要。実験の様子を演示したり、地層やマグマの動きなどを説明する際に使用。

準備室他

- ・理科の場合は、理科支援の学生がいるので、準備室に居場所の確保が必要。

その他

- ・屋外空間はあると良いが、安全面に配慮が必要。
- ・西丸子小のビオトープや多摩川学習での交流を行いながら、新校にも小さくてもビオトープを設置できると良い。
- ・昆虫・木・水の流れ・太陽の光の観察、栽培、光合成などを勉強するので、外部空間があると良い。
- ・環境学習室には水槽を置き、多摩川の生き物を飼育すれば、子どもたちは寄ってくると思う。ゲストティーチャーによる特別授業なども実施できる。総合の授業でも、生物にかかわる単元で使用できる。

■基本的な考え方

- ・様々な単元や実験内容に対応できるよう、実験台の仕様、配置を検討する。
- ・演示実験などに活用できる充実したICT環境の整備を検討する。
- ・理科室と連続して屋外での実験や観察ができるテラス、ビオトープなどの設置を検討する。
- ・環境学習室には水槽を設置するなど、理科の授業での活用だけでなく、休み時間などにも子どもたちが寄り付きやすい計画とする。

■参考事例

理 科 室



(武蔵野市立大野田小学校)

■多様な学習活動に対応
ex) 演示実験に配慮した実験台の配置



(多摩市立多摩第一小学校)

ex) 演示実験や講義に配慮した実験台の形状



(帝京大学小学校)

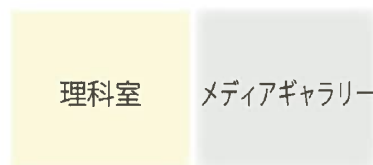
ex) 教室前の広いオープンスペース

・・・他のスペースとの連携・・・



(大洗町立南中学校)

■メディアギャラリーの活用



学ぶ + 展示する



(カリタス女子中学高等学校)

■テラスや中庭での観察



学ぶ + 観察する

Ⅲ 基本計画

③ 図工室まわり

■ ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・作業台は工作する力で動かないよう、重たいものが良い。4人用の作業台×10台が使いやすい。
- ・家庭科室と同様に、収納スペースが大切。特に図工は作品を掲示したり陳列するスペースがたくさん必要。作品はみんなが集まる共用部にも飾れると良い。
- ・図工の展示は貼ったり置いたりするだけでなく、天井から吊るせるようにするなど、角度を変えて眺められたり、ゆれる作品を楽しめたりするように工夫が必要。

準備室他

- ・準備室は家庭科室と同様に、教材準備的な利用より、教材や作品の収納スペースとしての利用がメイン。

その他

- ・屋外空間は、低学年の造形遊びなどで、土粘土を使用する場合に使用できる。また、水を使用する作業もあるので、水道があると便利。
- ・テラスがあると便利。

■ 基本的な考え方

- ・作業台は創作活動に適した仕様、配置計画とする。
- ・制作途中の作品の保管場所や、完成品の展示場所など、十分なスペースを確保する。
- ・立体作品の展示などにも配慮した様々な展示スペースの検討を行う。
- ・図工室と連続して屋外での創作活動ができるテラスなどを設置する。

■参考事例

☒ 工 室



(帝京大学小学校)

■創作活動の場の環境性向上

ex) 十分な採光・通風確保

ex) 十分な作品保管スペース



(イメージ)

■創作活動の利便性に配慮

ex) 多様な作品展示スペース



(イメージ)

・・・他のスペースとの連携・・・



(坂井市立丸岡南中学校)

■メディアギャラリーの活用



作る + 展示する



(帝京大学小学校)

■テラスや中庭の活用



作る + 作る

Ⅲ 基本計画

④音楽室まわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・鑑賞の授業ではメモ台が必要。
- ・琴などの演奏では、広いスペースが必要となるので、机と椅子は邪魔になる。
- ・机や椅子についての考えは先生によって異なる。普通教室のような机は邪魔となるが、メモ台付椅子も使用しづらいとの意見もある。基本的には椅子だけがあり、窓台や壁際のカウンターなどで書き物ができると良い。また、椅子を多めに置いておくと発表会などにも利用できる。
- ・スピーカーなどの音響機器の充実が必須。
- ・パート練習は楽器庫に余裕スペース（収納スペースの他に+0.5 コマ程度）があれば可能。
- ・いくつも部屋があっても1人の先生が見るには2室が限界。音楽室からガラス窓で楽器庫が見渡せると良い。

準備室他

- ・中学校では合奏の授業がない。小学校では合奏の授業が多いので、楽器庫は広めに確保する必要がある。
- ・楽器庫から体育館への移動は、発表会などの際にある。1層程度の移動なら階段でも可能だが、それ以上になるとEVが近接していると便利。また、移動経路は段差などをなくしフラットとしてほしい。

その他

- ・音楽室は3~6年生が各クラス週2コマ程度使用する。1学年4クラスだとすると、全部で32コマ必要となり、音楽室は1室では足りない。1、2年生も音の出る授業があることを考慮すると、同じ大きさでなくても良いので、音楽の授業ができるスペースは2室あると良い。

■基本的な考え方

- ・椅子はスタッキング可能なものとするなど、必要に応じて広いスペースを確保できる計画とする。
- ・メモを取るためのスペースを検討する。（窓台、カウンター、メモ台付椅子など）
- ・音楽室から見通しのきく練習スペースを確保するなど、パート毎に分かれての練習が可能な計画とする。
- ・性能の良いスピーカーなど、充実した音響設備機器の設置を検討する。
- ・第二音楽室や多目的ホールなどの設置を検討する。
- ・楽器庫は十分なスペースを確保すると共に、体育館への楽器の移動経路に配慮する。

■参事事例

音 楽 室



(横浜市立霧が丘小学校)

■小ホールとしての利用
ex) ステージの設置



(イメージ)

■騒音への配慮
ex) パート練習にも対応する
練習室の設置

・・・他のスペースとの連携・・・



(長浜市立長浜小学校)

■多目的ホールとの一体利用



音楽室

多目的ホール

歌う + 聞く



(砺波市立出町小学校_ランチルーム)

■多目的ルームとの一体利用



音楽室

多目的ルーム

歌う + 聞く

Ⅲ 基本計画

⑤生活科室まわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・十分な掲示スペースが必要。地域探検のMAPは1クラスあたり模造紙4枚分くらいあるが、このような大きいものは一時的なので、窓側に掲示している。
- ・発表などで使用できるステージがあると便利。ステージは、幼少連携や昔遊びの初めに、レセプション的に使用する際にも活用できる。ただし、広い空間を使いたい時もあるので、可動式のものが良い。
- ・落ち葉を拾ってきて秋を表現したり、工作などで水を使用するため、広いスペースの確保と掃除のしやすさが重要。
- ・低学年は工作も床でするので、大きな作業台は不要。
- ・低学年の音楽を生活科室（防音仕様とする必要あり）で行う場合は、鍵盤ハーモニカができる机が必要。机は収納可能なもので、長机でも良い。
- ・水を使用するので、清掃が容易なビニルシートやフローリングが望ましい。

準備室他

- ・準備室は不要。生活科室内に収納スペースがあれば良い。

その他

- ・普通教室でなく生活科室で授業を行うことができれば、制作途中のものを置いたままに出来るので、便利。昔遊びなどに使用する道具を置いておけたり、異学年の交流の場としても使用できる。可動式の雑壇などがあれば、更に活用の幅が広がる。

■基本的な考え方

- ・多様な活動が行えるよう、固定的な設えのない広くフレキシブルな空間とする。
- ・机や椅子などの家具は、容易に動かせるものとする。
- ・発表などに活用できる可動式ステージなどの設置を検討する。
- ・十分な掲示スペースと、様々な道具を収納できる収納スペースを検討する。
- ・流しを設置し、適切なカラン数とする。
- ・制作活動や水の利用などを考慮し、床仕上げは日常の清掃が容易な、メンテナンス性に配慮したものとする。

■参考事例

生 活 科 室



(久留米市立北野小学校)

■多様な学習活動に対応
ex) 多目的な広いスペース
流しの設置



(土浦市立土浦小学校)

ex) 多目的な広いスペース

Ⅲ 基本計画

⑥家庭科室まわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・調理台一体型、調理台分離型どちらにしても、ミシンのスペースの確保が必要。
- ・作業台と調理台の配置は、御幸小のように作るスペースと食べるスペースが分かれている方が良い。
- ・調理台を窓際（壁際）に設置する場合は、手元の様子が背後から確認できるよう、窓際（壁際）に鏡を設置している。
- ・先生によっては、調理前の指導は教室で行い、その後家庭科室に移動することもある。
- ・作品の収納スペースが大切。エプロンなどのかさ張らないものは、普通教室内に収納。

ICTの活用

- ・プロジェクターがあれば、教材や、作業が上手な子どもの手元を、皆に見せたりすることもできる。

準備室他

- ・準備室は、教材準備的な利用より、教材や作品の収納スペースとしての利用がメイン。

その他

- ・ランチルームは、異学年給食の他、机の配置上会議がしやすいので、会議スペースとなることが多い。
- ・ランチルームを別に確保するのではなく、例えば、家庭科室を広げて、一部をランチスペースとして使用しても良い。
- ・ランチルームで栄養士さんや給食員さんの話を聞いてから、家庭科室で実際に調理・食事をする事で食育としての使用も可能。
- ・ランチルームを食育センターとして、家庭科室や給食室と一体的に配置することもできる。
- ・防災時の炊き出し用に、プロパンガスを設置する。

■基本的な考え方

- ・作業台の配置に関しては、調理台一体型と分離型の双方の検討を行う。
- ・制作中の作品やミシン、調理器具などの十分な収納スペースを確保する。
- ・プロジェクターや実物投影機などのICT機器の設置を検討する。
- ・一体利用や食育の観点から、ランチルームなどの多目的スペースや給食室と連携可能な配置を検討する。
- ・災害時には炊き出しを行うなど、避難施設として機能する防災機能の検討を行う。

■参考事例

家庭科室



(川崎市立御幸小学校)

■地域開放への対応
ex) 地域コミュニティの場となる設え
(和室や多目的ルームに隣接)



(国立学園小学校)

■使い勝手に配慮した設え



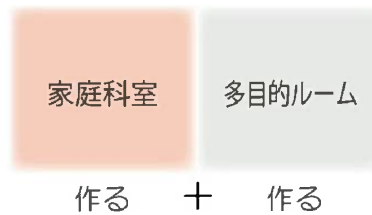
(川崎市立御幸小学校)

・・・他のスペースとの連携・・・



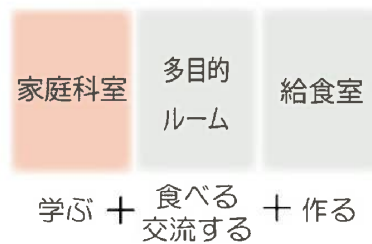
(福井市立至民中学校)

■多目的ルームとの一体配置



(川崎市立御幸小学校_ランチルーム)

■多目的ルームと給食室との一体配置 (食育)



Ⅲ 基本計画

⑦グローバルルーム（外国語活動室）まわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

活動内容と必要な機能

- ・現状の学習内容は会話（コミュニケーション）がメイン。コミュニケーションは、室内を歩き回り、1対1で会話をしていくなど、ゲーム感覚のものが多い。前に出での発表もある。
- ・2年後に教科化されるため、指導内容が変わることもある。
- ・とにかく大きなスペースが必要。普通教室の1.5倍程度。
- ・普通教室のような机と椅子を置く形式とメモ台付の椅子を置く形式がある。
- ・掲示スペースはあまり必要ないが、国の写真などの教材があるので、ラミネートして保管できる場所があると良い。
- ・ALTの居場所としての整備も必要。ALTも他の先生との交流ができるよう、職員室に座ってお茶が飲めるスペースなどがあると良い。

ICTの活用

- ・デジタル教科書の使用も想定され、画像教材もかなり活用するので、ICTはかなり使用する。
- ・パソコンで写真を写したり、音を発音させたりと、ICTはかなり活用する。

その他

- ・外国語の授業は普通教室でも可能なので、積極的に使用を促さなければ、使用しなくなる可能性もある。
- ・海外の小学校のようにカラフルで、異文化を感じるような空間だと良い。

■基本的な考え方

- ・異文化を感じられる設えとするなど、外国語活動に関する子どもたちの興味・理解を深めることができる空間とする。
- ・広いスペースを活用した体験的な活動と、講義的な学習双方を可能とする、固定的な設えのない広くフレキシブルな空間とし、今後の指導要領の変化にも柔軟に対応できる計画とする。
- ・ALTの居場所としての環境に配慮する。
- ・プロジェクターやPCなど、充実したICT機器の設置を検討する。

■参考事例

グローバルルーム（外国語活動室）



(富山市立中央小学校)

■異文化の理解を深める

ex) 多目的なスペース



(大洗町立南中学校)

ex) 異文化に触れる空間づくり



(シュタイナーズクール_カラフルな教室)



(今治市立常盤小学校)

ex) ICTの活用



(大津市立南郷小学校)

Ⅲ 基本計画

(3) 運動スペース

運動スペースを考える3つのキーワード

◇教科体育からその他学習、各種行事など、様々な活動を可能とする計画

- ・ 複数学年の同時利用に配慮したスペース、付属施設の一体的な配置、環境性能確保 など

◇地域開放や近隣への影響に配慮した計画

- ・ 他諸室との明確なゾーン区分、バリアフリー、近隣への砂埃や騒音防止対策 など

◇避難所としての利用に配慮した配置・設備計画

- ・ 災害時にも利用可能な設備システム、トリアージスペース、グラウンドとアリーナの連携 など

①グラウンド

■必要機能

遊具（ジャングルジム・雲梯・肋木・鉄棒・のぼり棒・滑り台など）、砂場、130mトラック、50m直線路、バスケットリング（可動式）、体育倉庫、石灰倉庫、トイレ、ピロティなど

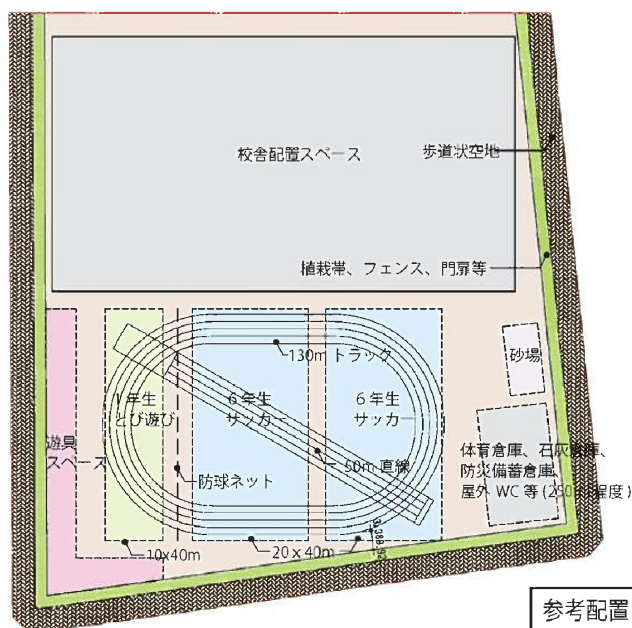
■参考配置

上記の必要スペースを、一般的な南グラウンドにて計画敷地に配置すると下図のようになる。

体育の授業における同時利用（例）
・ 6年生：サッカー（2面）
・ 1年生：とび遊び

校舎1F面積：3500㎡程度
グラウンド面積：4000㎡程度

※必要なスペースの大きさを判断するイメージ図であり、当計画の配置を示すものではない。



Ⅲ 基本計画

②アリーナ

■必要機能

コートライン (バスケット1面・ミニバスケット2面・バドミントン3面・バレーボール1面以上), ステージ, 器具庫, トイレ, ランニングスペース, 中2階, 更衣室 など

■参考プラン

上記の必要スペースを配置すると、下図のようになる。

■バスケットコート

障害程度はコートラインより周囲2m以上、高さは7m以上

	コートの標準の大きさ	リングの高さ
公式	15.0m×28.0m	3.05m
ミニバスケット	12~15m×22~28m	2.60m
(参考)大学程度	15.0m×28.0m	3.05m
(参考)高校程度	15.0m×26.0m	3.05m
(参考)中学程度	14.0m×24.0m	3.05m

■バレーボールコート

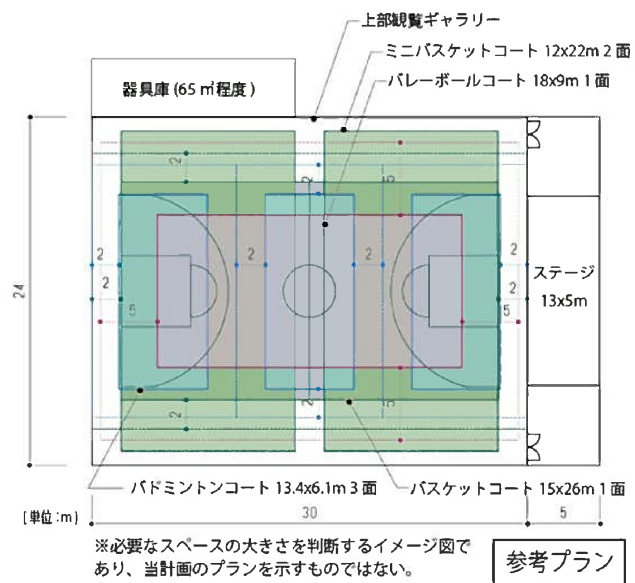
障害程度はサイドラインより5m以上必要、エンドラインより8m以上高さは12.5m以上(国際大会)、国内大会での高さは7m以上

		男子	女子
6人制	一般	18×9m	18×9m
	高校	21×10.5m	18×9m
	中学	20×10m	18×9m
	小学	16×8m	16×8m

■バドミントンコート (シングル・ダブルス共用)

障害程度はコートラインより周囲2m以上、高さは12m以上(公式試合)

	半コート	全コート	※表中の数値はコートの対角線の長さを示す
シングルス	8.469m	14.366m	
ダブルス	9.061m	14.723m	→コートサイズ6.1×13.4m



Ⅲ 基本計画

③様々な活動スペース

■屋上グラウンド



屋上グラウンド(中央区立中央小学校)



屋上グラウンド(中央区立中央小学校)

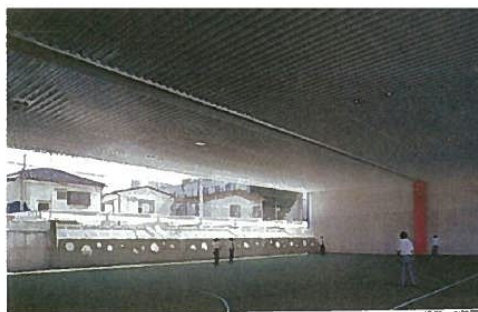


屋上グラウンド(福岡市立博多小学校)

■半外部空間・ピロティ



半外部空間(長岡市立東中学校)



ピロティ(豊島学院高校)

■前庭



前庭のアスレチック(鯖江市立中河小学校)

■その他



クライミングウォール
(品川区立御殿山小学校)



クライミングウォール
(江東区立第三大島小学校)



廊下に設置された遊具
(伊那市立伊那東学校)



特別支援学級プレイスペース
(川崎市立御幸小学校)



多目的スペースの鉄棒コーナー
(南砺市立福光東部小学校)

Ⅲ 基本計画

(4) 特別支援教室まわり

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

配置

- ・他者との関わりが重要なので、一般児童や教師の動線上に配置されていると良い。
- ・災害時の事を考えると1階に配置することが望ましい。

バリアフリー

- ・扉は上吊りのものとし、床面にレールが出ないようにするなど、床はフラットであることが求められる。
- ・シャワー、トイレは車椅子のまま入れるものが良い。
- ・洗面台の蛇口の高さは低・中・高の3種類必要。

ICTの活用

- ・ICTの整備は必須。パソコンを活用する。

その他

- ・プレイスペースの天井にはブランコなどを吊れるようにしてほしい。
- ・普通学級の生活科の授業とは別の「生活単元学習」という学習を行う。食事のためのお皿を用意したり、植物を育てたりする。畑や花壇などがあると良い。
- ・個別学習室の間の壁は、必要に応じて1室でも使えるよう、可動間仕切りにすると良い。
- ・先生は子どもの近くにいるので、教師ブースの様なまとまったスペースより、各学習室に教師卓を設置する方が良い。

■基本的な考え方

- ・障害の状態や特性に応じ、各教科活動や障害の改善・克服など、多様な学習活動を行える室構成とする。
- ・障害特性に応じたユニバーサルな教育環境を整備する。
- ・原則として1階に配置し、屋外に出やすい計画とする。
- ・保健室や管理諸室との連携が容易な配置とする。
- ・普通学級の児童との交流が生まれる位置に配置する。
- ・「特別支援学校施設整備指針」に準じ、「川崎市特別支援教育推進計画」に則った計画とする。



(沖縄市立美原小学校)



(川崎市立御幸小学校)

Ⅲ 基本計画

(5) 校務センターまわり：校務センター・校長室・事務センター

(校務センター：職員室、教師ラウンジ、印刷室、教材作成コーナー)

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

配置

- ・職員室はグラウンドを見渡せること。
- ・来客のインターフォンは職員室につながることで、職員室で対応後、スムーズに校長室へ招く事のできる来客動線を確保する。
- ・事務センターと印刷室は近い方が良い。

その他

- ・教職員の執務スペースであると同時に、リラックス・交流スペースとしても重要。
- ・テストの答案用紙などの大切なものの保管場所を確保する。
- ・教職員数が増加した場合に対応できるよう、フレキシブルな計画とする必要あり。

■基本的な考え方

- ・執務環境の充実を図ると共に、教職員のリフレッシュの場や情報交換の場となるようなラウンジなども整備する。
- ・グラウンド、児童の登下校動線、昇降口付近への見通しを確保する。
- ・職員用トイレや更衣室などを執務スペースから利用しやすい位置に計画する。
- ・児童や来訪者が訪れやすい開放的な雰囲気とし、教職員を身近に感じられる空間とする。
- ・職員室は来客対応がしやすいよう、来客用玄関や校長室との位置関係に留意する。
- ・職員数の増加に対応できるフレキシブルな計画とする。



開放的な雰囲気の職員室（南砺市立吉江中学校）



教師ラウンジ（千葉市立美浜打瀬小学校）

Ⅲ 基本計画

(6) 保健室まわり：保健室・相談室・保健ギャラリー

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

配置

- ・保健室ではシャワーなどを使うので、特別支援学級の水回りを一緒に使えると良い。
- ・相談室は、子どもと親の両方に使用する。不登校の子どもは相談室に登校してくることもある。相談室のうち少なくとも1室は、出入りを見られないように配慮する必要がある。
- ・保健ギャラリーはスペースとして確保できなくても、保健室前に掲示スペースや、体に関する本の置き場等が確保できていれば良い。

その他

- ・救急車は、他の子どもたちの心理的な影響に配慮して、目の届かないところに停車するようにしている。

■基本的な考え方

- ・保健室はグラウンドからのアクセスが容易で、緊急車両の停車スペースへの動線に配慮した配置とする。
- ・保健室は日照、採光、通風に十分配慮して計画する。
- ・保健室の位置は、管理諸室や特別支援学級との連携に配慮したものとする。
- ・相談室は周囲を気にせず出入りできるよう、入り口まわりの計画に留意する。
- ・保健ギャラリーを設けて、掲示などにより子どもたちの心と体の健康に関する意識を高める。



保健室（川崎市立大戸小学校）



保健ギャラリー（川崎市立はるひ野小学校）

Ⅲ 基本計画

(7) 地域連携諸室

■ヒアリングや検討委員会での主な意見

配置

- ・地域連携諸室は、学校と独立した運用が可能となるよう、わくわくプラザなどと一体に地域ゾーンとして配置すると良い。
- ・地域ラウンジを学校側から見渡せると良い。(ガラス張り等)

その他

- ・特別活動室は、地域の集会や学習・文化活動の他、委員会などで利用する。
- ・地域が使用できる倉庫を設置して頂けると良い。

■基本的な考え方

- ・独立した運用が可能となるよう専用の玄関を設け、敷地外部からアクセス容易な計画とする。
- ・地域の活動団体と児童や教員の間にならと交流が生まれる計画とする。
- ・他の施設開放諸室との連携に配慮する。
- ・広場との一体的な利用を可能にする連絡口を計画する。



参考プラン



ふれあいラウンジ (戸田市立芦原小学校)



地域の活動スペース (新潟県聖籠町立聖籠中学校)

Ⅲ 基本計画

(8) 歩道状空地

歩道状空地を考える上での配慮事項

◇周辺と調和した街並みづくり

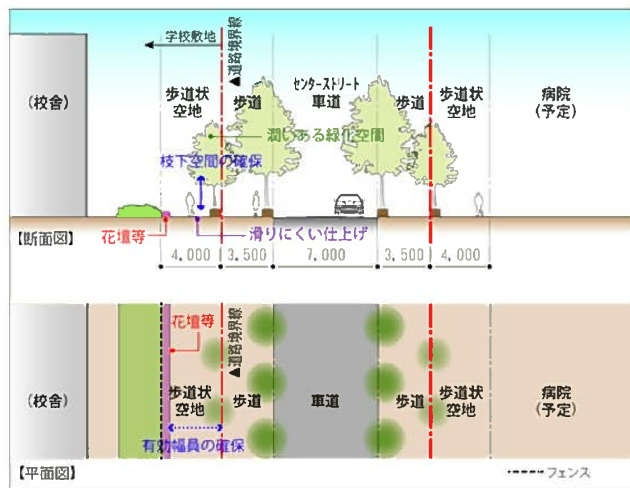
- ・ センターストリートを軸とした周辺街区との調和を図る

◇安全な歩行空間

- ・ 有効幅員・枝下空間の確保、バリアフリー、滑りにくい仕上げ など

◇潤いと憩いの緑化空間

- ・ 道路と歩道状空地の一体的な整備による潤いある緑化空間、地域との交流や学習に資する花壇などの設置を検討



歩道状空地（東側）のイメージ



樹種・植栽形態の統一（パークシティ新川崎）



潤いと憩いの緑化空間（イメージ）

武蔵小杉駅周辺における歩道状空地の整備状況

●中丸子地区
B-1、B-2



●中丸子地区
B-1、B-2



●中丸子地区
B-1、B-2



●中丸子地区
C-1



まちづくり局小杉駅周辺総合整備推進室

Ⅲ 基本計画

4. 各種検討

(1) 施設開放

本計画においては、以下のスペースについて、施設開放の可能性を踏まえた配置計画や機能の検討を行う。

スペース	想定される活動	検討事項
グラウンド	サッカー(少年・成人)、ドッジボール、少年野球、ソフトボール、野球、グラウンドゴルフ、走り方教室、盆踊り	 屋外トイレや屋外体育倉庫との一体的な配置 活動内容に配慮した仕上げや防球ネットなど
アリーナ	バレーボール、バスケットボール(ミニ・成人)、フットサル、バドミントン、卓球、ダンス、一輪車、太極拳、体操など	 トイレや更衣室の整備 会議室やシャワー設備など 活動内容に応じたコートの種類・サイズ、十分な器具庫の確保など
特別活動室	集会、各種学習・文化活動など	 子どもからお年寄りまで幅広い利用を想定 必要に応じて和室などを設置
地域ラウンジ (兼ボランティア室)	地域活動、ボランティア活動	 会議や作業など様々な活動を可能にする室形状・家具など
P T A 室	PTA活動	 会議や作業など様々な活動を可能にする室形状・家具など
多目的ルーム	コーラス、集会、各種学習・文化活動など	 文化活動をはじめ様々な活動を可能とする室形状・床仕上げなど
家庭科室	調理、集会など	 多目的ルームとの連携 調理台と作業台の配置
多目的ホール	コンサート、合唱、鑑賞、集会など	 多人数での利用に配慮した面積や天井高さ ステージや充実した音響機器の設置
図書室	図書の貸出、読み聞かせなど	 子どもからお年寄りまで幅広い利用を想定 読み聞かせのスペースの設置
郷土資料室	ギャラリーなど	 図書室との連携 地域の文化・歴史資産の活用

Ⅲ 基本計画

(2) 防災機能

①東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備

(「東日本大震災を踏まえた学校施設の整備について」緊急提言(概要)より抜粋)

学校機能再開までのプロセス			
	応急避難場所機能	学校の機能	必要な施設設備
救命避難期 (発災直後～避難)	地域住民の学校 への避難	子どもたちの安全 確保	避難経路 バリアフリー
生命確保期 (避難直後～数日 程度)	避難場所の開 設・管理運営	子どもたちや保護 者の安否確認	備蓄倉庫、備蓄物資 トイレ 情報通信設備 太陽光発電設備 プールの浄化装置
生活確保期 (発災数日後～数 週間程度)	自治組織の立ち 上がり、ボラン ティア活動開始	学校機能再開の 準備	ガス設備 和室 更衣室 保健室
学校機能再 開期	学校機能との同居 →避難場所機能の 解消	学校機能の再開	学校機能と応急避難場 所機能の共存を考慮し た施設整備

①救命避難期 ②生命確保期 ③生活確保期 ④学校機能再開期

被災地からの声

- ・校舎上層階に避難し助かった
- ・校舎の屋上に速やかに避難でき無事であった

今後の対策例

○避難経路の確保

- ・近隣の高台等に避難経路を整備
- ・建物上層階への避難経路の確保(屋外階段等)
- ・上層階が安全で緊急的な避難場所となるよう建物を高層化

①救命避難期 ②生命確保期 ③生活確保期 ④学校機能再開期

被災地からの声

- ・備蓄倉庫が水没したため数日間飲まず食わず
- ・可搬式発電機があり照明や携帯電話の充電に役立った
- ・トイレに苦労した
- ・外部との情報伝達が途絶

今後の対策例

○備蓄物資／備蓄倉庫

- ・子どもたち、想定避難者数などに応じ、食料、水、防寒具、毛布、携帯トイレ、扇風機、可搬式発電機などの物資を備蓄できるスペースを安全な場所に整備

○トイレ

- ・汚水貯留槽の整備、マンホールトイレの設置 など

○情報通信設備

- ・防災無線、災害時有機電話の設置 など

○電気、水、屋内環境

- ・蓄電機能等を備えた太陽光発電設備の整備、プールの浄水装置、避難場所の断熱性能の確保 など

①救命避難期 ②生命確保期 ③生活確保期 ④学校機能再開期

被災地からの声

- ・ガスが止まり炊き出し等に支障
- ・女性の更衣室がなく困った
- ・高齢者等は床が板張りのため体調を崩した

今後の対策例

○ガス設備

- ・プロパンガスを都市ガスの調理器具等に使用できるようガス変換装置を接続するための接続口を整備

○畳・じゅうたんスペース

- ・高齢者や障害者等の避難生活に配慮し和室等を整備 など

○更衣スペース

- ・女性のプライバシーに配慮したスペースを整備

○避難場所運営のためのスペース

- ・災害時に備え応急避難場所の運営に必要な、執務スペース、教護・炊き出しスペース、救援物資用スペース、掲示・連絡スペースなどをあらかじめ設定
- ・給食室や家庭科室を炊き出しに利用できるよう整備 など

○バリアフリー化

- ・スロープや障害者用トイレ設置等のバリアフリー化

①救命避難期 ②生命確保期 ③生活確保期 ④学校機能再開期

被災地からの声

- ・発災から数ヶ月経っても屋内運動場が避難場所となっていて使用不可

今後の対策例

○教育活動と避難生活の共存

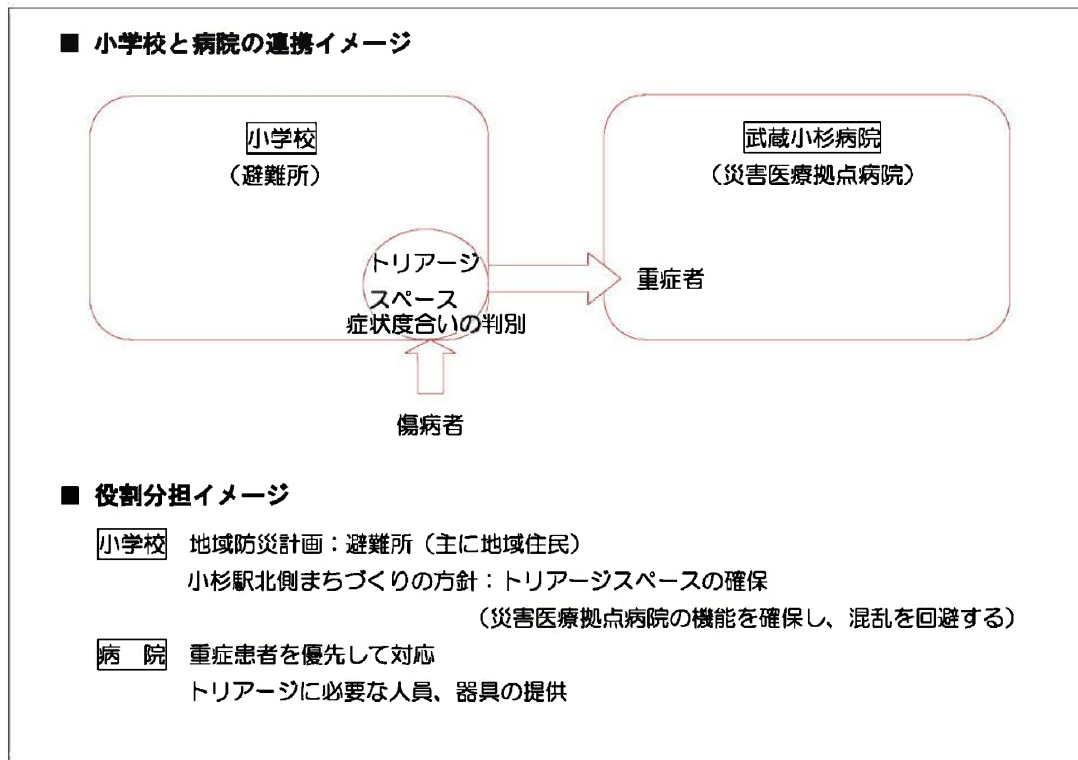
- ・この段階まで、学校施設に避難場所としての機能を持たせる場合、教育活動エリアと避難エリアの明確なゾーン分け など

Ⅲ 基本計画

②防災機能に関する基本的な考え方

- ・避難動線を最短化するため、グラウンド（一時避難）と体育館（避難所）の位置関係に留意する。
- ・学校機能再開期には、避難所機能と両立が可能となるよう、明確なゾーニングを行う。
- ・エネルギー途絶時にも一定の室内環境を維持するため、屋根・外壁・床などの断熱化を図ると共に、自然エネルギーを利用したシステムの導入について検討する。
- ・日本医科大学武蔵小杉病院との連携に配慮し、災害時にトリアージスペースとして使用できるピロティなどの空間を設ける。

以下に、病院との連携に関する考え方を示す。



Ⅲ 基本計画

③災害時の利用想定と必要機能

災害時における各スペースの利用想定と配置イメージを以下に示す。



※ 病院(予定)側への搬送動線の確保に関しては、今後、日本医科大学や関係官庁との協議が必要。
 ※ 図は、主要なスペースについて災害時の機能と配置イメージを示したもので、本計画の詳細な平面計画を示すものではない。

III 基本計画



III 基本計画

災害時における各スペースの利用想定と機能を以下に示す。

室名			利用想定		インフラ途絶時の設備機能確保 ◎通常同等に確保 ○一部機能の確保 ☆ハック手法で対応(自然エネルギー)							建築機能			
			主要な救護・活動場所	避難・救護		空調		電力		通信	衛生		建築		
				一般避難で利用	トリアージで利用	空調	換気	照明	コンセント	テレビ等	給排水	給湯	ガス	断熱	
校舎	普通学級	普通教室											○		
		オープンスペース												○	
		ワークルーム・多目的スペース												○	
		児童トイレ												○	
		更衣室												○	
	支援学級	少人数教室												○	
		生活科室												○	
		グループ学習室												○	
		個別指導室												○	
		特別支援プレイスペース												○	
	特別教室	理科・図工	多目的トイレ・シャワー・更衣室											○	
			図工室												○
		家庭・ランチ	理科室												○
			環境学習室												○
		音楽	多目的ルーム兼家庭科室	○	炊き出し										○
			和室	○	高齢者・授乳・更衣			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
			音楽室												○
			多目的ホール												○
		メディアセンター	放送室												○
			図書室												○
	パソコン教室													○	
	郷土資料室													○	
	生活	昇降口	子ども会議室											○	
			グローバルルーム(外国語活動室)											○	
		児童トイレ	児童トイレ											○	
			校長室												○
		管理	校務センター	○	避難所支援			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
事務センター														○	
会議室														○	
用務員室														○	
職員更衣室・休憩室・シャワー														○	
地域連携		来客・職員トイレ		トイレ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	心のケア	○	応急対応・感染症・心の支援			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
	保健室												○		
	相談室												○		
屋外施設	地域ラウンジ												○		
	特別活動室	○	ボランティア			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
	PTA室												○		
学童給食	トイレ		トイレ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
	屋外体育倉庫												○		
体育施設	防災備蓄倉庫		防災備品					○					○		
	屋内運動場												○		
ピロティ	屋外トイレ												○		
	ゴミ・資源物置場												○		
体育施設	アリーナ	○	避難所			☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
	更衣室兼会議室	○	避難所運営			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
ピロティ	トイレ		トイレ・シャワー				◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
	物資搬入・炊き出し等	○	受付・判別					☆	◎	◎	◎	◎	○		

※ 災害の規模により、救護活動場所が普通教室や特別教室に及ぶことも想定される。

④防災機能の整備例

本計画に関連のある防災機能の整備例について、以下にまとめる。

なお、ここで挙げる内容は施設整備の一例であり、本計画において整備が確定しているものではない。

①救命避難期（発生直後～避難）

避難する市民を守る力

1 十分な耐震性の確保

- 大地震後も構造体が大きな補修をすることなく建物を使用できる耐震性を備えた学校

2 非構造部材の耐震化

- 体育館などの天井の高い室の天井や照明器具の落下防止策を十分に行之、被災後も避難所として十分に利用出来る学校。

※非構造部材：天井材、照明器具、外壁（外装材）など



3 避難しやすい動線

- 避難動線に配慮した昇降口・グラウンド入り口などの配置計画。
- 避難動線を複線化し、安全により確実に避難経路を確保。



4 車の乗り入れ動線を確保

- 自家用車の避難による渋滞を回避するため、被災時は、車が直にグラウンドに乗り入れられる動線を確保。
- 救急車両の進入が容易なように、待避所までのゆとりある動線を確保。



5 バリアフリー

- 応急避難場所となる体育館などのバリアフリーを徹底。



6 半屋外スペース

- 安全に一時退避できる空間を確保。



②生命確保期（避難直後～数日程度）

生活を維持する力

1 支援の受け入れまで命をつなぐ

- 児童生徒数、避難者数に応じた食糧、水、毛布や発電機などとその安全な保管場所（備蓄倉庫）の確保。



2 耐震性貯水槽、中水・雨水利用設備

- 飲料水兼用耐震性貯水槽により断水時にも飲料水を確保。
- 中水利用設備や雨水利用設備により生活用水やトイレの洗浄水を確保。



3 トイレの確保

- 災害時でも使えるトイレと応急トイレを用意できるスペース及び便槽の確保。
- 高齢者も使用しやすい洋便器タイプのマンホールトイレ。



4 緊急汚水槽

- 公共下水が断絶した場合に、敷地外に排水できない汚水の貯留槽を確保。

5 災害時の電力確保

- 災害時も最低限の電力が賅える蓄電機能などを備えた太陽光発電などの自然エネルギーを利用した発電システム。



6 情報インフラの確保

- TVや電話の整備による安定的な情報収集や、情報収集・伝達するための掲示・連絡スペースの確保。
- 1系統に頼らない情報インフラ、複数の情報通信方法の確保、アナログ回線、防災無線



7 室内環境の向上

- 避難場所となるスペースについては、断熱性能の確保について検討。
- 冬期の避難に備えた暖房設備の確保、夏期の暑さ対策として通風を考慮した計画。

③生活確保期（発災数日後～数週間程度）

暮らしを支える力

1 畳・絨毯スペース

- ・高齢者や障害者などの避難生活に配慮し和室などを整備。空調効率の悪い体育館に代わる採暖スペースにもなる。



2 プライバシー

- ・着替えや授乳など考慮して、プライバシーが確保可能な諸室の配備。



3 避難所運営スペース

- ・支援物資の荷捌きスペース
- ・炊き出しスペース
- ・ボランティアの執務スペース



4 感染症対策

- ・感染症発生時には避難所を区画して利用可能な計画。



5 プロパンガスの併用

- ・都市ガスが途絶した場合にも炊き出しが行えるよう、プロパンガスの利用を想定。

6 バリアフリー

- ・身体障害を抱える方の暮らしにも支障がないよう、車椅子用トイレなど、避難所エリアのバリアフリー対策。



7 シャワーの確保

- ・長期の避難生活に備え体育館にシャワー設備を設置、都市ガスが途絶した場合にも温水を供給できるよう太陽熱利用設備なども検討。

④学校機能再開期

元の暮らしへ戻す力

1 独立した運用が可能な教室エリア

- ・学校を避難所として利用しながらも、教育の場として独立した運用が可能な普通教室エリア。



2 学校再開と避難生活の共存

- ・学校活動に影響の少ない避難生活場所の確保。



3 エコノミークラス症候群対策

- ・長期に亘る避難所生活による、運動不足・体調不良に配慮し、体育館以外に、軽い運動や理学療法士による支援などが行えるようなスペースを確保。



4 心の支援スペース

- ・ストレス対策として、相談コーナーなどとして利用可能な、プライバシーに配慮した諸室の確保。



5 ボランティアとの協働スペース

- ・水と燃料が確保できれば炊き出しが可能な家庭科室など、ある程度のインフラが整えば、住民とボランティアの協働作業が可能な施設計画。



6 情報共有・交流スペース

- ・災害から時間が経つ頃には、復興に向けての後押しが出来るよう、避難所同士の情報共有、交流スペースとして利用できる空間を確保。

(3) 環境配慮機能

エコスクール

地球温暖化対策が喫緊の課題となってる中、学校施設においても、環境を考慮した施設として、エコスクール(※1)の整備が求められています。文部科学省では、エコスクールの普及・啓発に努めており、環境教育の教材として活用できる学校施設の整備を目的としたエコスクールパイロット・モデル(※2)など、エコスクールの整備を促進しています。

※1 エコスクール：環境を考慮した学校施設

※2 エコスクールパイロットモデル：文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省が連携協力して、学校設置者である市町村などがエコスクールとして整備する学校をモデル校として認定するもの



環境を考慮した学校施設の整備推進（文部科学省・農林水産省・経済産業省・国土交通省）より抜粋

①環境配慮機能に関する基本的な考え方

- ・環境負荷の低減と、快適な室内環境実現の両立を図る。
- ・地域特性や周辺の環境を踏まえ、本計画地において効果的な機能を整備する。
- ・学習に資する機能の整備と、効果的な設置方法・設置場所などの検討を行う。
- ・平常時だけでなく、災害時にも有効な機能を整備する。

②環境配慮機能の整備例

本計画に関連のある環境配慮機能の整備例について、以下にまとめる。

なお、ここで挙げる内容は施設整備の一例であり、本計画において整備が確定しているものではない。

樹・植物によるエコ

1 屋上緑化

- 断熱性向上と屋上散水の蒸発潜熱による冷却効果により、屋根面からの熱取得量を削減。



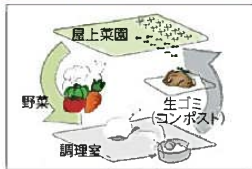
2 みどりのカーテン

- 教室の前などにプランターを設け、日射を抑制。



3 参加するリサイクル

- 児童・生徒が野菜を育て、収穫する菜園を設け、「収穫→調理→生ゴミのコンポスト化による肥料づくり」という、リサイクルを実現。



4 微気候デザイン (局地的な気候)

- 樹木による木陰の創出や、周辺の風の流れをそよ風として建物内に取り込むなど、周辺環境を利用した快適な環境デザイン。



5 バイオマス燃料

- バイオマス燃料である木片ペレットを使用するボイラやストーブを採用。



風・水によるエコ

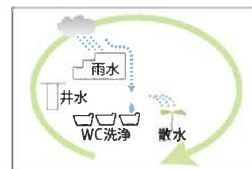
1 自然通風・ナイトパージ・外気冷房

- 階段室や吹抜を利用した上昇気流と自動開閉窓を利用することにより、自然換気を促進。



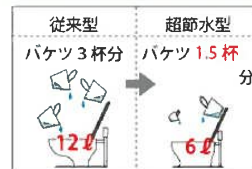
2 雨水利用

- 雨水などを便所の洗浄水や植栽散水として利用。



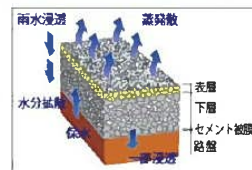
3 超節水便器の採用

- 自動水栓や洗浄水が少ない超節水型便器(6ℓタイプ)を採用。



4 透水性舗装

- 外構の舗装部分は透水性舗装や透水性ブロックを使用することにより、雨水の流出を抑制。



5 風力発電

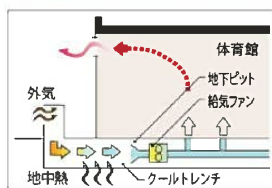
- 風力によるクリーン発電システムを採用し建物内の電力消費の低減と発電所での一次エネルギーの消費量を低減する。



熱のエコ

1 地中熱活用の体育館

- ・年間を通して温度が安定している地中熱を利用して、夏涼しく冬暖かい空気を導入。



2 太陽熱利用

- ・太陽熱集熱装置により太陽熱を給湯の予熱に利用。



3 居住域空調

- ・床吹き出しにより、人が居る場所を中心に効率よく空調。



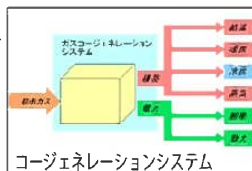
4 電力・ガスの複合熱源の採用

- ・電力やガスなどを組み合わせて、災害に強いシステムを構築。電力には効率の良い地中熱ヒートポンプを併用。



5 コージェネレーションシステム・燃料電池

- ・マイクロジェネにより電気と熱を生成し、熱を給湯に使用。
- ・燃料電池：水素と酸素の化学反応により電気と熱を生成し給湯などに使用。



光・その他のエコ

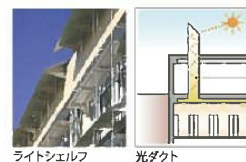
1 太陽光発電パネル

- ・屋根や庇などに設置し、蓄電装置を組み合わせることで停電時にも電力供給が可能なシステムの採用。



2 昼光利用

- ・ライトシェルフにより自然光を反射し室内に取り入れる。
- ・光ダクトやトップライトを利用することにより、自然光を導入。



3 照明エネルギーの節減

- ・天井の高い空間や外灯、WCには寿命が長く高効率なLED照明を採用し、照度センサーや人感センサーを用いた照明制御により無駄な点灯を回避。



4 木材利用

- ・低炭素社会の学校として、積極的に間伐材などの地域材を活用し、暖かな空間を実現。



5 見える化

- ・様々な設備システムの仕組みや効果を見る化することにより、環境学習としても活用。



Ⅲ 基本計画

③快適な室内環境実現の取組例

学習活動を支える環境面での施設づくりのアイデア例を以下にまとめる。

□明るい、まぶしくない、暑くない教室 ～安定した自然採光を～

安定した明るさの学習環境

直射日光を防ぎながら教室全体を均一的な明るさとすることで、落ち着いたある、目にも優しい学習環境が得られ、子どもたちが集中できるようになる。

～安定した自然採光確保のための取組事例～

南向きの教室

- ・ライトシェルフ（注1）や水平ルーバーを設置し、教室の奥まで太陽光を届けながら、同時に日照を調整しカーテンをしなくても窓側の環境を守ることができるような工夫をする。

注1 ●ライトシェルフ●

窓の上部に設けた庇（中庇）のことで、窓際への直接入射光を遮るとともに、この庇により太陽光を天井に反射させて部屋の奥まで明るくする工夫。



ライトシェルフ
普通教室内部
ライトシェルフにより日照の調節がされた南向きの教室（愛知県瀬戸市立品野台小学校）

その他の採光

- ・日照や通風経路を確保するため、教室の前の廊下や多目的スペースは南側に開いたつくりとし、北向きの教室は多目的スペースに面して配置。間仕切りは設けないか、開閉可能なものとする。
- ・平屋または最上階の教室では、天空光（注2）を取り入れられるように、北向きの高窓や天窓などを設けることも考えられる。
- ・東あるいは西向き窓については、垂直ルーバーを用いて日照調整する。

注2 ●天空光●

太陽光のうち、直射日光を除き、天空のあらゆる方向から地上に到達する光。出典：三省堂刊「大辞林」



南に開けた多目的スペースに面する北向きの教室（広島県呉市立川尻小学校）

温熱環境への配慮

- ・日射の調整とともに、建物周囲を樹木などで緑化して夏季の気温を下げたり、教室の中の通風経路を確保したりすることなどにより、教室の温熱環境を調節する。



木のパーゴラと緑のカーテンによる日照調整（山梨県昭和三野市立榎原小学校）

光ダクトの照明

- ・光ダクトを利用することにより、窓のない部屋の自然光を導入。



※ここで挙げる内容は施設整備の一例であり、本計画において整備が確定しているものではない。

□風が通るさわやかな教室 ～自然の通風・換気を活かした教室～

良好な学習環境

- ・気候風土に応じた自然の力を利用して、子どもをはぐくむ場として良好な学習環境を確保できる。
- ・通風・換気の仕組みそのものを見て分かりやすいものとするにより、環境教育に活用できる。

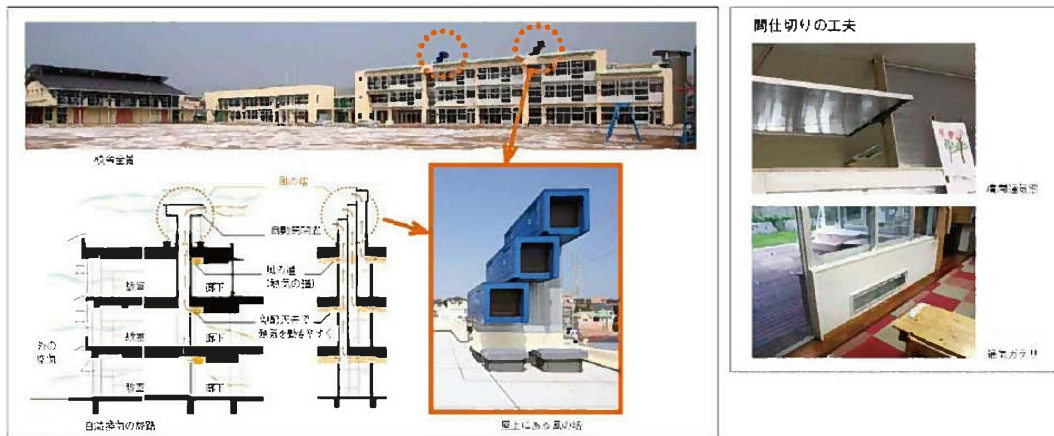
省エネ効果

自然の力を活用した温熱制御であるため、省エネ化が図れる。

～自然通風・自然換気確保のための取組事例～

通風経路の確保

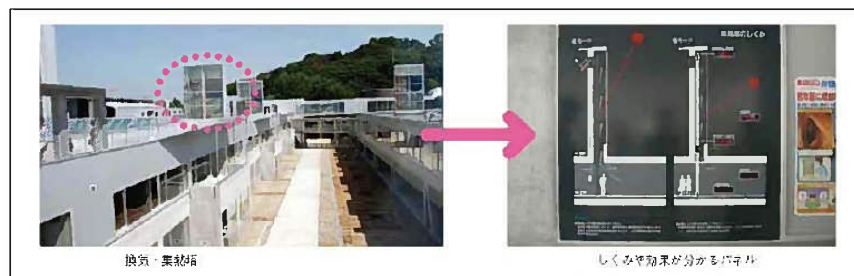
- ・通風経路を確保しやすい平面および断面計画とする。
- ・教室空間において、可動式や格子状の間仕切りを使用したり、開口部を工夫したりする。
- ・自然の風力や室内外の気温差を利用してより積極的な通風・換気・(暖房)を行う設備を計画することも考えられる。
- ・計画時に通風のシミュレーションをし、想定した効果があるかどうかについて確認する。
- ・換気窓の工夫により、夜間の自然通風・換気が行えるようにする。



風の塔、風の道を利用した自然換気（神戸市立玉津第一小学校）

見て分かりやすくする工夫

- ・設備の仕組みや効果を模式図や数値で示したパネルを設置するなど、子どもたちが見て分かりやすいようにする。



自然換気設備（換気・集熱塔）とその効果を見て分かりやすいように計画（福島県立会津学園中学校・高等学校）

参考文献：文部科学省 新たな学校施設づくりのアイデア集
～充実した教育活動と豊かな学校生活のために～（平成 22 年 1 月）

Ⅲ 基本計画

(4) ユニバーサルデザイン

①検討の背景

「高齢者、身体障害者などが円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律(通称：ハートビル法)」は平成15年(平成14年7月公布、平成15年4月施行)に一部が改正され、地方公共団体がその地域の自然的、社会的条件の特殊性により福祉のまちづくり条例を定めて拡充、強化できるようになった。以降、全国各地で条例制定が進み、特別特定建築物として、学校、共同住宅、保育所などの社会福祉施設などとして追加する措置、車椅子のすれ違い幅の基準を広くするなどが規定され、学校施設はバリアフリー化の努力義務の対象として位置付けられた。これらを受け、文部科学省では「学校施設のバリアフリー化などに関する調査研究協力者会議」を設置(H15.8)し、小学校、中学校を中心に学校施設のバリアフリー化などを推進するための基本的な考え方や計画・設計上の留意点などについて「学校施設のバリアフリー化などの推進について(H16.3)」を取りまとめた。本報告書においては、以下の5つの視点が示されており、主に①～③の考え方について計画段階での目標が示される必要がある。特に①については、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告、H24.7)」が示されるなど、特別支援学級のみを想定した施設整備だけでなく、学校施設全域にわたるユニバーサル化の必要性が高まっている。

- ①障害のある児童生徒などが安全かつ円滑に学校生活を送ることができるように配慮
- ②地域住民の学校教育への参加と生涯学習の場としての利用を考慮
- ③災害時の応急避難場所となることを考慮
- ④学校施設のバリアフリー化などの教育的な意義に配慮
- ⑤運営面でのサポート体制などとの連携を考慮

注) ハートビル法はH18.6に「交通バリアフリー法」と統合され、「バリアフリー新法(高齢者、障害者などの移動などの円滑化の促進に関する法律)」となっている。

②検討の考え方

本計画においては、「川崎市福祉のまちづくり条例・同施行規則」の遵守に加えて、上述の「学校施設のバリアフリー化などの推進について(H16.3)」の内容について、将来のインクルーシブ教育の進展についても配慮する。

主に以下の視点については、取組を推進し、障害のある児童の学校全域における安全かつ円滑な学校生活を推進する。

- ・各階における多目的トイレの設置
- ・動線や建築設備利用の円滑化を図るサイン・色彩計画 など

Ⅲ 基本計画

(5) ICT 環境整備における現状と課題

本市小学校における ICT 環境の整備における現状と今後の課題について以下にまとめる。

①国の方向性

■「教育の情報化ビジョン」(平成 23 年 4 月 28 日 文部科学省)

□教科指導における情報通信技術の活用

デジタル機器

- ・電子黒板、プロジェクタ、実物投影機、地上デジタルテレビなどの提示用のデジタル機器を全ての教室で活用

ネットワーク環境

- ・1人1台の情報端末による学習の実現に向けた、超高速の校内無線 LAN 環境の構築

指導者用デジタル教科書

学習者用デジタル教科書、情報端末など

デジタル教材

■「学びのイノベーション事業」(文部科学省)、「フューチャースクール推進事業」(総務省)の連携による総合的な実証研究

□21 世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿

一斉学習・共同学習・個別学習

②本市小学校の ICT 環境整備の現状と課題

■普通教室の ICT 環境

50 インチテレビ (各教室)

- ・学校教育放送を鮮明な画像で視聴
- ・教材や資料などの拡大掲示

(課題)「画面がやや小さい、60 インチはほしい。」

「室内の移動がしやすいが、設置にスペースをとる。」

ノート型コンピューター (各教室)

- ・インターネット接続可 (校内 (有線) LAN)
- ・資料提示、プレゼンテーション用

(課題)「タブレットなどのように自由に動かして使える端末があると良い。」

教材提示装置 (各校普通教室の半数以上)

- ・実物や資料、ノートなど手元にあるものを写し、テレビなどと接続し拡大提示

(課題)「接続などの手間を考えると、各教室に常設して使いたい。」

■パソコン教室の ICT 環境

全小学校のパソコン教室に 40 台の児童機整備

- ・今年度 2/3 は入れ替え、次年度残り 1/3 入れ替え予定
- ・ノート型、通常は有線 LAN 接続だが、無線 LAN での活用も可能なもの

Ⅲ 基本計画

一人一台コンピューター環境を活かした活動

- ・コンピューター操作習熟と情報リテラシー育成
 - ・個人での作品制作
 - ・情報収集・Web 検索
- (課題)「パソコン教室と図書室・普通教室の同時利用も多い。」
- ・情報モラル教育(疑似体験など)

他の児童と協力した活動

- ・グループでの発表資料作成
 - ・グループで目的別に情報収集・選択・まとめなど
- (課題)「大きな机を入れたりPCを移動したりして、自由な作業スペースを確保したい。」

■その他

タブレット端末(可搬型)

- ・2/3の学校にタブレット端末10台、普通教室での活用を想定
- ※保管庫・可搬型の無線LANアクセスポイント付
- (課題)「台数が少ない。」
- 「部分的な(一時的な)無線LAN環境をつくるために、準備などで時間を要する。」

ネットワーク環境

- ・校内有線LAN整備
- (課題)「タブレット端末の有効活用のためには、無線LANの環境を整備していくことが必要」